

# 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲 ㊦ 第	号	氏名	熊崎博一
論文審査担当者	主査	精神神経科学	三村 將	
	小児科学	高橋 孝雄	内科学	鈴木 則宏
	小児科学	長谷川 奉延		
学力確認担当者	河上 裕		審査委員長	高橋 孝雄
			試問日	平成27年 6月22日
<b>(論文審査の要旨)</b>				
論文題名 : Sex differences in cognitive and symptom profiles in children with high functioning autism spectrum disorders (高機能自閉スペクトラム症児における認知及び症状プロフィールの性差)				
<p>本研究は、思春期前の高機能自閉スペクトラム症 (high functioning autism spectrum disorder :HFASD) 児 (女児20名、男児26名) を対象に、Wechsler Intelligence Scale for Children-3rd EditionおよびChildhood Autism Rating Scale-Tokyo Versionを用いて自閉症特性における性差を検討し、HFASD女児は男児に比し“味覚・嗅覚・触覚反応とその使い方”において重症であることを示し、味覚・嗅覚・触覚への反応を正しく評価することが女児におけるHFASDの早期発見・介入に重要と結論した。</p> <p>審査では、患者が思春期前であることの判断根拠について問われ、月経周期を認めていないことは確認したが、他の指標を十分に確認していなかった点は反省されると回答された。本研究の結果は思春期以降を対象とした先行研究と同等であったかと問われ、限定的な感覚症状のみについて評価した先行研究と、各感覚様式別に検討した本研究の結果を直接比較することは困難と回答された。次に、HFASDにおける早期介入の意義について問われ、Early Start Denver Modelなど有効性が立証されている介入モデルがいくつかあり、二次障害における予防効果が期待されると回答された。女児HFASD患者は、その優れたカモフラージュ能力によりコミュニケーションに長け、社会適合性が高いことを考えると、男児に比して軽症であるという解釈は可能かと質問され、HFASDの特質には、社会性、コミュニケーション、同一性保持における障害が重要であるが、これらは異なる遺伝的背景により生じるとされており、社会性とコミュニケーションについては女児で軽症例が多いと考えられるが、同一性保持については当てはまらない可能性が高い。したがって何をもって軽症とするかは難しい、と回答された。片頭痛など他の神経疾患でも嗅覚異常は認められるが、HFASDと共通の病態は想定可能かと問われ、嗅覚異常はアルツハイマー病や統合失調症などでも重要徴候として着目されており、HFASDにおいてもバイオマーカーとしての有効性を示唆した研究があると回答された。HFASDにおける嗅覚異常は過敏か鈍麻かと問われ、行動観察や両親面談では嗅覚過敏を評価することは比較的容易であるが、低反応を感知することは困難な場合が多い。自ら行っている予備実験によれば、HFASD児の多くは“なじみのあるにおい刺激”に低反応を示すことが示されておりさらに検討したい、と回答された。</p> <p>以上、さらに検討すべき点はあるものの、思春期前女児のHFASDでは感覚刺激に対する異常反応を重視すべきであることを明らかにした点で有意義な研究と評価された。</p>				